

秋田県設計VEニュース

Vol.7 H19.8.23

◆ 「北東北3県設計VE担当者会議」が開催されました。

7月24日、25日の両日、秋田県で「北東北3県設計VE担当者会議」が開催され、1日目は砂防事業の設計VEの実践を見学した後、提案テーマについての意見交換が行われました。今年度から設計VEの実践に取り組む青森県と今後設計VEを導入する岩手県、それに設計VEの実践を進めている秋田県が、それぞれの体験をもとに設計VE推進に向けての情報交換を行いました。

2日目はVEアドバイザー横田尚哉氏（パシフィックコンサルタンツ株）から、各県が抱える課題に対して、『職員への風土づくりや県にVEの情報を提供できるシステムが必要であること』などのアドバイスを頂きました。

その後、今年度設計VEを実施したほ場整備事業のVE提案報告会を見学しました。このVEは2チームで別々に検討を行い、それぞれが提案したものをさらに組み合わせして最善案を提案したこれまでにないスタイルであったことから、提案内容はもちろん手法にも強い関心が寄せられました。



(7月24日 意見交換)



(7月25日 横田氏からのアドバイス)

◆ 砂防事業で初めての設計VEを実施しました。

男鹿市大阪台沢の砂防堰堤及び溪流保全工の予備設計（事業費1億5百万円）に対しての設計VEを実施しました。工種数が少なかったため、コスト縮減は難しいとの見方もありましたが、メンバーのがんばりにより結果は16%のコスト縮減提案がされました。

メンバーとして参加した秋田県建設技術センターの中嶋班長代理からは次のような感想が寄せられています。

報告者：秋田県建設技術センター技術部 班長代理 中嶋 学夫

VEワークショップへの参加は2回目になります。今回の特徴は、

- ①砂防事業のVEであること
- ②事業規模が比較的小規模であること
- ③2日間に短縮したスケジュール

などです。なぜか、砂防事業では道路事業に比較し、制約が多いような印象を受けました。また、対象事業が小規模であり、10%の縮減目標をクリアしたとはいえ、縮減額に物足りなさを感じました。反面、制約があっても規模が小さくても、VEの効果は必ずあることが証明できたと思います。加えて、ワークショップに設計コンサルタントの担当の方にも参加いただき、VE提案が確実に詳細設計へ反映される手応えもありました。

個人的にはVEL取得後に参加したワークショップであり、設計VEに対する理解がより深まりました。4日間のフルVEに比較すると2日間のVEでは、肝心の「機能定義」の時間が不足しています。また、提案に際して技術的な検討が必要なケースが多々あります。こうしたケースでは、検討に要する調査解析等の費用を見込んで提案する必要があると思います。

VEワークショップ中はVEに集中することが必要です。今回のように当技術センターの研修室をご利用いただければ、通常業務や電話から完全に離れることができます。今後もぜひご利用下さい。



(キックオフ・ミーティングでの現場調査)



(VE実践中：於 建設技術センター)

報 告：秋田県建設交通部技術管理室建設マネジメント班